



公益社団法人

日本水産資源保護協会

季報

2015年 **冬** 通巻542

第7巻 第4号

CONTENTS

年頭のご挨拶 公益社団法人日本水産資源保護協会会長 川本 省自…………… 3

◆養殖と防疫…………… 4	店頭販売技術スキルアップ講座開催のご案内 (高知会場)
◆会議の報告等…………… 6	マリン・エコラベル・ジャパン、養殖エコラベル認证实績
水産防疫対策事業	
水産資源保護啓発研究事業	
◆事業の紹介…………… 9	◆お知らせ…………… 14
中国向け輸出活水产産物検査 (目視検査)	

マリン・エコラベル・ジャパン認証取得者の紹介

富山湾 (氷見, 七尾) 寒鯿大敷網漁業…………… 2

国産水産物流通促進事業の紹介

『店頭学習会』を開催しました…………… 15



みんまや 三厩漁協が漁獲したアブラツノザメの加工・販売でマリン・エコラベル・ジャパンを取得している (有) 田向商店がFish-1グランプリ2014 (築地市場) で開催された「国産魚ファストフィッシュ商品コンテスト」に出場し、準グランプリを受賞しました。

(写真左) ☆準グランプリ☆を受賞した「津軽海峡あぶらつの鮫の蒲焼」

(写真右) 田向商店の田向常城 専務取締役



「富山湾（氷見，七尾）寒鰯大敷網漁業」 がマリン・エコラベル・ジャパン の認証を取得しました

「株式会社酒井水産および寒鰯大敷網有限会社」がマリン・エコラベル・ジャパンの生産段階認証を取得しました。同時に「株式会社酒井水産」は当該漁業による漁獲物の加工販売について流通加工段階認証を取得しました。

○生産段階認証○

申請者：株式会社酒井水産および
寒鰯大敷網有限会社（所属定置網1統）
審査対象魚種：漁獲対象魚種の全て
漁業種類：定置漁業
漁場：石川県七尾市大泊町地先（大泊漁場）
認証番号：JFRCA39AA

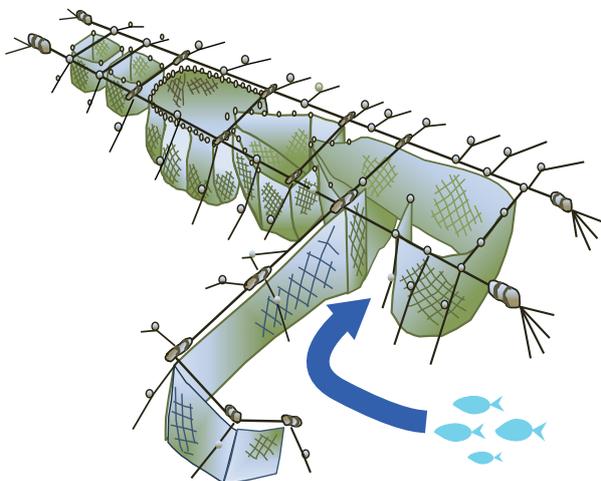
○流通加工段階認証○

対象者：株式会社酒井水産
対象者所在地：富山県氷見市宇波4851
流通加工段階：水産物の生鮮、凍結、冷蔵、加工、販売
認証番号：JFRCA39AAAA



定置漁業は400年以上の歴史がある漁業です。この度認証された定置漁業も50年以上も昔に開拓され、現在まで研究機関・行政機関の指導を受けながら操業を続けています。

定置漁業は来遊する魚種を選び好み無く漁獲する受動的な漁法であり、資源管理が自律的に行われます。また、漁獲のために毎日揚網される魚獲部分には網目を大きくしたりリリース網を取り付け、幼稚仔魚類を逃がすことで無駄な漁獲も防止しています。



証書を授与される酒井水産代表取締役 酒井光二氏（右）

マリン・エコラベル・ジャパン (MEL ジャパン) は、水産資源と海にやさしい漁業を応援する制度として2007年12月に発足しました。この制度は、資源と生態系の保護に積極的に取り組んでいる漁業を認証し、その製品に水産エコラベルをつけることにより、このような漁業を奨励・促進する制度です。当協会は MEL ジャパンの審査機関です。認証取得についてのお問い合わせは、企画情報室までお願いいたします。



年頭のご挨拶

公益社団法人 日本水産資源保護協会
会長 **川本 省自**

新年明けましておめでとうございます。

昨年は大型台風、竜巻、豪雨、豪雪、熱波の天候不順の年でありました。また、噴火や大地震などもありました。同様なことが海でも見られ、これまでにないような魚の回遊が観察されたり、渚に魚が打ち上げられたりと話題になりました。漁業の変化・変動は天然生物資源に頼る産業としては宿命的なものです。食糧提供を受け持つ産業としてはやはり人智を駆使して安定的な魚介類の提供と安定的な漁業経営の確保の努力を重ねていきたいものです。

当協会は、水産資源の保護の啓蒙普及活動を通じて、持続可能な水産業が進展していくよう活動しておりますが、5年前からFAOの水産エコラベル認証ガイドラインに基づいた漁業のエコラベル認証業務を開始し、昨年からは養殖エコラベル認証機関としても活動しております。

昨年はマリンエコラベルジャパンで2業種を認証し、計22業種となりました。養殖エコラベルでも2業種の認証をしました。この24業種で年間生産量は15万トン、100魚種ほどが認証となりました。我が国の生産量の3～4%が認証されたこととなります。

その詳細は別途紹介いたしますが、エコラベルは消費者段階まで伝えられて初めて十分な意味をもつものです。当協会の扱う認証制度では、エコラベル製品が流通する際にかかる手間・経費が少ないよう実務的な工夫がされております。

当協会が水産物の流通課題に本格的にかかわるようになり1年余りになります。今までは主として生産段階・加工段階での流通目詰まりの解消努力のお手伝いをしてまいりました。しかし、流通は生産から消費までの全ての過程を経ますので、川下の小売段階の目詰まり解消も大切であります。昨年はその手始めに、小売店の店員を主な対象として水産物販売力向上の為のスキルアップ講座を開始しました。また、給食関係者との話し合いの機会も増やしました。

今年は、外食産業や介護産業などのより消費に近い段階の目詰まりにも注目してまいりたいと思っております。

会員各位の更なるご理解とご支援をお願いいたします。

魚病関連会議の報告

平成26年度魚病症例研究会

日時：平成26年12月4日(木)～12月5日(金)

場所：いせ市民活動センター北館いせシティープラザ

出席：関係都道府県、独立行政法人水産総合研究センター本部・増養殖研究所、公益社団法人日本水産資源保護協会

議事次第：

1. 開催挨拶
2. 特別講演ホタテガイの *Perkinsus qugwadi* について
3. 話題提供 (12月4日)
 - ・養殖ブリ類の溶血レンサ球菌症 (*Lactococcus garvieae*) による非凝集株の出現 (大分県 福田穰)
 - ・ *Edwardsiella tarda* が原因と考えられる *Coregonus peled* の斃死について (福島県 渡邊昌人)
 - ・兵庫県におけるシュードモナス症発生状況について (兵庫県 川村芳浩)
 - ・分離されたシュードモナス菌の遺伝子型 (増養殖研 嶋原佳子)
 - ・ウニの棘抜け症防止技術開発に関する研究 (佐賀県 野口浩介)
 - ・エドワジエラ・イクタルリ検査で陰性になった場合の注意点 (増養殖研 坂井貴光)
 - ・梅酢の種類および添加濃度を変えた梅酢投与マダイの抗病性 (和歌山県 堅田昌英)
 - ・種苗生産現場におけるヒラメのクドア・セプトンククタータ感染防除法の開発 (増養殖研 西岡豊弘)
4. 話題提供 (12月5日)
 - ・種苗生産施設におけるアワビ稚貝の高水温期の大量へい死について (徳島県 湯浅明彦)
 - ・フクトコブシから検出された *Xenohaliotis californiensis* のアワビ類への感染性および飼育

経過観察における死亡率 (東京都 高瀬智洋)

- ・キセノハリオチスの我が国アワビ類に対する病原性について (増養殖研 桐生郁也)
- ・スッポンの疾病について (大分県 朝井隆元)
- ・アユの鰓アメーバ症の発生と対策について (千葉県 荒井雄大)
- ・従来と異なるモジャコ住血吸虫の症例 (鹿児島県 柳宗悦)
- ・不明病のサンプリングについて (増養殖研 三輪理)

5. 閉会挨拶

平成26年度水産増養殖関係研究開発推進会議「魚病部会」

日時：平成26年12月5日(金)

場所：伊勢シティホテル平安・桃山の間

出席：関係都道府県、独立行政法人水産総合研究センター本部・増養殖研究所、公益社団法人日本水産資源保護協会

1. 開催挨拶
2. 昨年度要望等への対応 (増養殖研究所)
3. 魚病を取り巻く情勢報告 (消費・安全局水産安全室)
4. ブロック別魚病発生状況、問題点、要望等報告 (合同検討会幹事県)
 - ・東北・北海道魚類防疫地域合同検討会 (福島県内水面水産試験場)
 - ・内水面関東甲信ブロック地域合同検討会 (山梨県水産技術センター)
 - ・東海・北陸内水面地域合同検討会 (福井県内水面総合センター)
 - ・近畿中国四国ブロック内水面魚類防疫地域合同検討会 (山口県水産研究センター)
 - ・北部日本海ブロック魚類防疫地域合同検討会 (青森県産業技術センター内水面研究所)
 - ・西部日本海ブロック魚類防疫対策協議会 (京都府農林水産技術センター・海洋センター)
 - ・太平洋ブロック地域合同検討会 (神奈川県水産技術センター)
 - ・瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会 (高知県

水産試験場)

- ・九州・山口魚類防疫対策地域合同検討会(福岡県水産海洋技術センター)
- ・南中九州・西四国水族防疫会議(鹿児島県水産技術開発センター)
- 5. 増養殖研魚病関連部局の昨年度の研究・事業成果及び今年度計画(増養殖研究所)
- 6. 課題別研究会活動報告(増養殖研究所)
- 7. 平成26年度水産防疫対策委託事業概要(日本

水産資源保護協会)

- 8. 総合討議
 - (1) 要望事項への回答
 - (2) 分野別・ブロック別推進会議等での魚病関連の要望への対応
 - (3) 研究成果情報
- 9. 出席者の講評等
- 10. その他

●平成26年度魚類防疫士の認定●

平成26年度魚類防疫士技術認定委員会(平成26年12月26日)において、本年度の魚類防疫士技術認定試験(平成26年12月19日に実施)に合格と判定された者を、同日付で魚類防疫士に認定しました(別表)。

平成26年度魚類防疫士技術認定委員会

委員：良永知義(東京大学大学院)、佐野元彦(東京海洋大学大学院)、森広一郎(独立行政法人水産総合研究センター増養殖研究所)、熊谷明(宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場)(敬称略)

平成26年度 魚類防疫士認定者(17名)

認定番号	氏名	所属
850	水野 伸也	地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部さけ・ます内水面水産試験場
851	高橋 憲明	岩手県内水面水産技術センター
852	鈴木 究真	群馬県水産試験場川場養魚センター
853	湯浅 由美	群馬県水産試験場
854	深山 義文	千葉県水産総合研究センター種苗生産研究所
855	武石 健	千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所
856	重倉 基希	長野県水産試験場
857	野々村 卓美	鳥取県栽培漁業センター
858	岩本 有司	広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター
859	茅野 昌大	山口県水産研究センター内海研究部
860	西岡 智哉	徳島県立農林水産総合技術支援センター
861	吉原 勇作	愛南町水産課水産振興室
862	松本 昌大	福岡県水産海洋技術センター内水面研究所
863	吉岡 宗祐	大分県農林水産研究指導センター
864	山内 岬	沖縄県水産海洋技術センター石垣支所
865	平塚 元幸	公益社団法人日本水産資源保護協会
866	鳴島 ひかり	公益社団法人日本水産資源保護協会

水産防疫対策事業

平成26年度養殖衛生管理技術者養成 本科専門
コース研修

日時：平成26年12月10日(木)～12月18日(木)
場所：公益社団法人 日本水産資源保護協会 3F
研修室

科目および講師：

科 目		時間	氏 名	所 属
魚類薬理学		6	大嶋 雄治	国立大学法人九州大学大学院 農学研究院
魚類飼養学		6	佐藤 秀一	国立大学法人東京海洋大学 海洋科学部
魚類生理学		6	大久保 範聡	国立大学法人東京大学大学院 農学生命科学研究科
魚類病理学		6	三輪 理	独立行政法人水産総合研究センター 増養殖研究所魚病診断・研修センター
魚類免疫学		6	中西 照幸	日本大学生物資源科学部
養殖衛生管理 問題に関する 特論・演習	I 水産防疫の取り組みに 関する意見交換	6	公益社団法人 日本水産資源保護協会	
	II 魚病の見方 ～経験を基に～	2	吉水 守	国立大学法人北海道大学大学院 水産科学研究院*
	III 養殖現場における魚病 診断・対策	2	水野 芳嗣	媛すい有限責任事業組合
合計時間数		40		

(敬称略)

*は元の所属

時間割：

月 日	時 限		1	2	3	4	5	6
	10:00～ 11:00	11:00～ 12:00	13:00～ 14:00	14:00～ 15:00	15:15～ 16:15	16:15～ 17:15		
12月10日(水)	魚類飼養学 (佐藤)		魚類飼養学 (佐藤)		魚類飼養学 (佐藤)		魚類飼養学 (佐藤)	
12月11日(木)	特論・演習I		魚類薬理学 (大嶋)		魚類薬理学 (大嶋)		魚類薬理学 (大嶋)	
12月12日(金)	魚類薬理学 (大嶋)		特論・演習II (吉水)		特論・演習I		特論・演習I	
12月15日(月)	魚類生理学 (大久保)		魚類生理学 (大久保)		魚類生理学 (大久保)		魚類生理学 (大久保)	
12月16日(火)	魚類病理学 (三輪)		魚類病理学 (三輪)		魚類病理学 (三輪)		魚類病理学 (三輪)	
12月17日(水)	魚類免疫学 (中西)		魚類免疫学 (中西)		魚類免疫学 (中西)		魚類免疫学 (中西)	
12月18日(木)	特論・演習I		特論・演習III (水野)					

(敬称略)

受講者：

都道府県等	氏名	所属
北海道	水野 伸也	地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部 さけ・ます内水面水産試験場
岩手県	高橋 憲明	岩手県内水面水産技術センター
群馬県	小野関 由美	群馬県水産試験場
千葉県	深山 義文	千葉県水産総合研究センター種苗生産研究所
長野県	重倉 基希	長野県水産試験場
島根県	柳谷 浩一	公益社団法人島根県水産振興協会栽培漁業センター
広島県	岩本 有司	広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター
山口県	茅野 昌大	山口県水産研究センター内海研究部
徳島県	西岡 智哉	徳島県立農林水産総合技術支援センター
愛媛県 (愛南町)	吉原 勇作	愛南町水産課水産振興室
福岡県	松本 昌大	福岡県水産海洋技術センター内水面研究所
大分県	吉岡 宗祐	大分県農林水産研究指導センター
沖縄県	山内 岬	沖縄県水産海洋技術センター石垣支所
JIRCAS	Marcy Nicole Wilder	独立行政法人国際農林水産業研究センター水産領域
日水資	鳴島 ひかり	公益社団法人日本水産資源保護協会

(敬称略)

水産資源保護啓発研究事業

実施した巡回教室、コンサルタント派遣、ブロック研修会の概要は以下のとおり。

巡回教室の開催

回	開催日	派遣依頼 機関	開催場所	課 題	内 容	講師氏名 (敬称略)
5	9月12日	長崎県	諫早市	アサリ資源の増大に向けた資源管理及び漁場管理の手法	愛知県のアサリ資源維持の取り組みとして、稚貝の各地先への移植と母貝場の形成、サイズ規制や食害生物の除去などの資源管理・漁場管理が紹介された。今後の課題としては次の点が挙げられた。①生息場の保全・修復・造成 ②複数の稚貝発生場を確保する ③地先のアサリ資源の維持・増大 ④再生産ネットワーク(親貝の産卵→浮遊幼生→稚貝→親貝→産卵の繋がり)の維持	愛知県水産試験場漁業生産研究所 宮脇大
6	9月25日	長野県	安曇野市	山梨県のワカサギ漁業の現状と課題	山梨県のワカサギ漁業と各漁場の課題(山中湖・精進湖：ワカサギの小型化、西湖：ヒメマスとの共存)について紹介があり、特に、河口湖でワカサギが釣れない、増えない原因は湖中に豊富に存在するミジンコにあるとされ、対応として放流時期の早期化、中長期的な対応として自家採卵・産卵場の造成を行うことが挙げられた。	山梨県水産技術センター忍野支所 岡崎巧
7	10月7日	広島県	尾道市	アサリの天然採苗と垂下養殖	生産量の回復・安定には天然採苗技術の開発が必要であるとし、網袋に基質を詰めて干潟に敷設する採苗技術と注意点、活用方法について解説を受けた。また、カキ殻加工品ケアシェルを基質に用いた網袋の敷設試験結果の紹介があった。	水産総合研究センター増養殖研究所 日向野純也

回	開催日	派遣依頼 機関	開催場所	課 題	内 容	講師氏名 (敬称略)
8	10月8日	岩手県	久慈市	北海道におけるマナマコ漁業と人工種苗放流の取り組み	北海道におけるマナマコ漁業、GISを用いたマナコ資源管理システムの紹介を受けた。また北海道における人工種苗放流について紹介があり、集中放流試験の結果からマナコは波紋状に拡散移動し、3年後の90m四方の生残率は2～18%、2年後に漁獲サイズになると解説を受けた。	北海道立総合研究機構函館水産試験場 赤池章一
				青森県におけるマナマコ増殖の取り組み	青森県におけるマナコの生態や漁業、資源管理について解説があり、青森県では漁業調整規則のほか自主的な管理対策が行われ、資源管理指針を策定し指導していることが紹介された。また、ホタテガイ貝殻礁の稚マナコ着底・育成場としての有効性について解説を受ける。	青森県産業技術センター水産総合研究所 菊谷尚久
9	11月19～20日	和歌山県	西牟婁郡白浜町 古座川町	内水面漁協の運営・経営の改善策等について～豊かな川と魚を後世に残すために～	川や湖沼の秩序ある管理のためにも内水面漁協は必要であるとし、今後、漁協が取り組むこととして次の点が挙げられた。①魚種別の増殖の収支を明確化しそれぞれ対策を図る ②遊漁料収入を増やす ③アユの増殖方法を検討する ④溪流魚の場合は稚魚放流から発眼卵放流、親魚放流に切り替えていく ⑤増殖目標を減らし、その分のお金をカワウ対策、バス・ギルの駆除に使う	水産総合研究センター増養殖研究所 中村智幸

コンサルタントの派遣

回	開催日	派遣依頼 機関	開催場所	課 題	内 容	講師氏名 (敬称略)
4	10月7日	青森県	東津軽郡外ヶ浜町	まぐろ漁に係る築地市場仲卸業者との意見交換会	竜飛、三厩産の津軽海峡本まぐろの中央市場での評価について意見交換を行い、品質向上の取り組み例の紹介や、それを宣伝する努力も必要との助言を受けた。	株式会社やま幸 岡戸宣人

ブロック研修会の開催

回	開催日	派遣依頼 機関	開催場所	会議名称	課 題	講師氏名 (敬称略)
3	11月11～12日	福島県	耶麻郡猪苗代町	東北・北海道魚類防疫地域合同検討会	我が国におけるIHNの現状と予防対策	日本大学生物資源科学部 間野伸宏
4	11月14日	福井県	福井市	内水面ブロック研修会	アユの新興性疾病と再興性疾病	広島大学大学院生物圏科学研究科 中井敏博
5	12月4日	山梨県	東京都港区	全国湖沼河川養殖研究会マス類資源研究部会	ブラウントラウトの定着要因と在来種への生態的影響	水産総合研究センター 北海道区水産研究所 長谷川功

中国向け輸出活水産物検査（目視検査）

平成 26 年 8 月 1 日より、中国向けに輸出される活水産物については、「中国向け輸出活水産物の取り扱いについて」（平成 26 年 7 月 17 日付、26 消安第 1731 号農林水産省消費・安全局長通知、26 水漁第 441 号水産庁長官通知）に定められた「中国向け輸出活水産物の取扱要領」に従い、当該活水産物に対し輸出証明書の発行を受ける必要があります。詳細につきましては、水産庁ホームページ「中国向け輸出活水産物の取り扱いについて」をご覧ください。

（公社）日本水産資源保護協会は、農林水産省水産庁加工流通課長より「中国向け輸出水産物の検査機関」として認定されました（平成 26 年 8 月）。

* 輸出証明書の発行は行っていません。

◆検体について

わが国から中国へ輸出される活水産物（魚類、貝類、甲殻類）が対象となります。1 件につき 3～8 尾（ロットの個体数による）での検査です。詳細についてはお問い合わせください。

◆実施方法

水産庁の「中国向け輸出活水産物の取扱要領」の（別添 2）「中国向け輸出活水産物の検査手順」の「1. 目視検査」に準じた検査方法により実施します。

◆検査経費

	1 件あたりの検査経費（税抜）
1. 検体送付による検査	¥7,500
2. 現地出張による検査 [*] （日帰り）	¥25,000
（一泊二日）	¥43,500

* 現地出張による検査は別途交通費（税抜）を加算します

◆申込方法

電話にてお申込み下さい。

◆検査結果

水産庁「中国向け輸出活水産物の取扱要領」の「中国向け輸出活水産物の目視検査実施報告書」の様式 7 により報告書を発行します。

◆平成 26 年度検査実績（平成 27 年 1 月現在）

魚類 2 件

貝類 3 件

店頭販売技術スキルアップ講座 開催のご案内（高知会場）

国産水産物流通促進センターでは国産水産物の販売促進に資するため、下記の日程で店頭販売技術スキルアップ講座を開催いたします。この講座は、店頭での販売を担われている方を対象者とし、水産物の知識をより深め、販売力の更なる向上を目指していただくことを目的としています。座学と調理実習を含む2日間のカリキュラムです。

平成26年度は金沢、大阪、静岡と実施しており、順次全国各地で開催していきます。

- ・日時：平成27年2月26日（木）8:30～16:30
3月19日（木）8:30～17:00
- ・会場：2月26日（木）MS四国（旧四国糧食高知支店）2F会議室
〒780-0084 高知市南御座6-10
3月19日（木）学校法人三谷学園 RKC調理師学校
〒780-0985 高知市南久万58-1
- ・講座：詳細は、当センターWeb国産水産物流通促進事業について「水産ポータルサイト」⇒店頭販売技術スキルアップ講座開催のご案内⇒「講座のご案内」
内容については次項に掲載しています。
- ・講師陣：シーフードマイスター研修等で好評を博している講師陣に加え、高知県水産試験場職員、調理師学校講師に講義頂きます。
- ・募集定員：25名（先着順）
今回の講座では、四国の小売の方を主対象としていますが、それ以外の水産物生産・流通にかかわる方も受講可能です。
※ご応募は、全日程（2日間）受講可能な方に限ります。
- ・募集締め切り：平成27年2月16日（月） ※定員に達し次第締め切ります。
- ・参加費：無料（別途資料代7,560円）

【お問い合わせ、お申し込み先】

国産水産物流通促進センター（担当構成員）公益社団法人 日本水産資源保護協会 担当：鳴島
TEL：03-6680-4277 FAX：03-6680-4128
e-mail：ryu-jfrca@mbr.sphere.ne.jp

高知県 店頭販売技術スキルアップ講座の概要(予定)

科目	内容	予定	講師
ガイダンス	挨拶 講座内容紹介	8:40～	スタッフ
魚介類の知恵	魚介類の分類 魚介類の価値と美味しさ 魚介類の目利き 魚介類の生産と表示 魚介類の管理と未来	8:50～10:20 (90分)	梶 達也
休憩(10分)			
魚介類の品目	マグロ類、カツオ、サバ、アジ、サケ、ブリ、 タイ、イワシ、イカ類、タコ類、貝類	10:30～12:00 (90分)	梶 達也
昼食休憩(1時間)			
プレゼンテーション	自分を表現する 話す力 プレゼンの基礎 プレゼンの実習 接客	13:00～14:30 (90分)	遠藤のぶこ
休憩(10分)			
栄養の基礎	栄養素のおはなし バランスのよい食事 魚介類の栄養と効能 食中毒に注意 健康情報について	14:40～16:10 (90分)	三谷 英子

科目	内容	予定	講師
ガイダンス	挨拶 講座内容紹介	8:40～	スタッフ
調理の基礎	部位の特徴 調味料 食べ方のバリエーション 生・焼く・煮る・揚げるなど レシピ作成のポイント	8:50～10:20 (90分)	川淵 智子
休憩(10分 教室移動)			
美味しさの表現	食空間の演出のために 素敵な食空間を残すために 盛り付けの実践と撮影 食中毒に注意 健康情報について	10:30～12:00 (90分)	川淵 智子
昼食休憩(1時間)			
手洗い検査機で手洗いチェック		13:00～	
調理の技術	アジをさばいてみる イカをさばいてみる 御造りにしていただく	13:10～14:40 (90分)	島村 昌利
休憩(10分 教室移動)			
特別講演 店頭販売の知恵	シーフードダイアリーの活用他	14:50～15:40 (50分)	藤掛 進
資格希望者写真撮影 兼 休憩時間			
修了式	挨拶、講評 試験・課題の説明	15:50～	スタッフ
修了試験	筆記試験 4科目 開始30分後以降は退席可	16:00～17:00	

※ 講義の順番や講師の変更がある場合もあります。ご承知おきください。

マリン・エコラベル・ジャパン、養殖エコラベル認証実績

※各認証については14ページ参照

マリン・エコラベル・ジャパン認証実績(2015年1月)

認証魚介類	漁業名	生産段階認証	照会先	主な製品
ベニズワイガニ	日本海べにずわい漁業	日本海かにかご漁業協会 2008年12月10日取得	日本海かにかご漁業協会 古木均事務局長 0859-42-3713 境港センター冷蔵株式会社 作野一己常務 0859-44-0451	紅ズワイ棒肉
ヤマトシジミ	十三湖シジミ漁業	十三漁業協同組合 2009年5月21日取得	十三漁業協同組合 相坂泰史専務 0173-62-3866 北福海産 北田嘉弘社長 0174-25-3067 (有)コクヨー 澤田浩二課長 0853-72-3160	シジミ (生、冷凍、加工品)
サクラエビ	さくらえび2そう船びき網漁業	由比港漁業協同組合 大井川港漁業協同組合 2009年5月21日取得	由比港漁業協同組合 豊島課長 0543-76-0001 カネシチ大石商店 大石一芳社長 0543-88-2234	サクラエビ (生、冷凍) サクラエビ (冷凍、加工品)
イカナゴ	愛知県いかなご船びき網漁業	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会 2010年3月16日取得	かじや水産(代表 小久保 吉加) (株)太次平商店(代表取締役社長 天野 徹) 大一商店(代表 小久保 幹雄) マルイチ水産(代表 小久保 吉明) テルニ商店(代表 辻 美喜生) マル伊商店(代表 坂下 徳次) マルト商店(代表 山下 直助) カネ成海産(代表 荒井 紀行) ヤマ庄水産(代表 山下 清治) (有)南知多漁業青年グループ(取締役 坂口 信己) (有)まると水産(代表取締役 與吾 英彦) (有)山善(代表取締役 大岩 勝代) 浜善(代表 濱口 長一郎) ヤマタ水産(株)(代表取締役社長 天野 徹) (株)三米商店(代表取締役社長 三浦 一哲) (株)海泉フーズ(代表取締役 村松 利晋) (株)海泉水産(代表取締役 村松 利晋)	イカナゴ、シラス (加工品)
カツオ	近海かつお一本釣り漁業	全国近海かつお・まぐろ漁業協会 2010年12月16日取得		
カツオ、ピンナガ	遠洋かつお一本釣り漁業	日本かつお・まぐろ漁業協同組合 2010年12月16日取得	焼津漁業協同組合 鈴木伸吾次長 054-628-7127 山福水産(株) 土佐鯉水産(株) (株)高橋商店 音代漁業(株) 石原水産(株) (株)南食品 串本食品(株)	カツオ、ピンナガ (冷凍、加工品)
イカナゴ、マイワシ、カタクチイワシ	摂津しらす・いかなご船びき網漁業	摂津船びき網漁業協議会 2011年5月16日取得	神戸市漁業協同組合 河本勝博専務 078-706-0456 財文水産 財将晃専務 0738-22-0169	イカナゴ、シラス (生、加工品)
スルメイカ、マサバ、ゴマサバ、サンマ、マイワシ、スケトウダラ、サケ、カラフトマス、サクラマス、ヒラメ、マツカワほか	南かやべ定置漁業	南かやべ定置漁業協会 2011年5月16日取得 10月6日魚種限定解除	野村水産 野村讓社長 0138-25-3456	鮮魚、加工品 スルメイカ、マサバ、ゴマサバ、サンマ、マイワシ、スケトウダラ、サケ、カラフトマス、サクラマス、ヒラメ、マツカワ

認証魚介類	漁業名	生産段階認証	照会先	主な製品
カツオ	高知県カツオ曳縄釣漁業	土佐のかつお流通対策協議会 2011年10月6日取得 2013年1月11日対象漁業者追加	高知県庁合併・流通支援課 宮澤主幹 0888-21-4611	カツオ (鮮魚、たたき、刺身)
キンメダイ	高知県キンメダイ樽流し釣漁業	高知県漁業協同組合 2011年10月6日取得	高知県庁合併・流通支援課 宮澤主幹 0888-21-4611	キンメ (鮮魚、活き作り、酢ヅ、刺身用フィレー)
キンメダイ	高知県キンメダイ手釣(餌)漁業	高知県漁業協同組合 2011年10月6日取得	高知県庁合併・流通支援課 宮澤主幹 0888-21-4611	キンメ (鮮魚、活き作り、酢ヅ、刺身用フィレー)
キンメダイ	高知県キンメダイ手釣(毛ばり)漁業	高知県漁業協同組合 2011年10月6日取得	高知県庁合併・流通支援課 宮澤主幹 0888-21-4611	キンメ (鮮魚、活き作り、酢ヅ、刺身用フィレー)
ゴマサバ	高知県サバ立縄釣漁業	高知県漁業協同組合 2011年10月6日取得	高知県庁合併・流通支援課 宮澤主幹 0888-21-4611	ゴマサバ (鮮魚、刺身)
サンマ	大船渡さんま棒受網漁業	鎌田水産株式会社 2012年8月3日取得	鎌田水産 鎌田仁社長、山口優希 0192-27-8470	サンマ (鮮魚、すりみ)
サケ、サクラマス、キングサーモン、ギンザケ、ベニザケ、カラフトマス、スルメイカほか	北海道猿払サケ定置漁業	藤本漁業部 2012年8月29日取得	オホーツク活魚 藤本信治専務 0163-62-4553	鮮魚、冷凍、フィレー サケ、サクラマス、キングサーモン、ギンザケ、ベニザケ、カラフトマス、スルメイカ
カラフトマス、サクラマス、サケ、クロガシラカレイ、マガレイ、メガネカスベ、ホッケほか	北海道猿払小型定置漁業	藤本漁業部 2012年8月29日取得	オホーツク活魚 藤本信治専務 0163-62-4553	鮮魚、冷凍、フィレー カラフトマス、サクラマス、サケ、クロガシラカレイ、マガレイ、メガネカスベ、ホッケ
マイワシ、カタクチイワシ	愛知県しらす船びき網漁業	愛知県しらす・いかなご船びき網連合会 2012年10月9日取得	上記イカナゴに同じ	上記イカナゴに同じ
アブラツノザメ	青森県三厩あぶらつものざめ延縄漁業	三厩漁協さめ釣り部会 2012年11月1日取得	田向商店 田向常城専務 017-741-0936	アブラツノザメ (剥き身、蒲焼き、サブリ)
キビナゴ	宿毛湾きびなご中型まき網漁業	すくも湾漁業協同組合 2013年01月20日取得	高知県庁合併・流通支援課 宮澤主幹 0888-21-4611	キビナゴ (鮮魚、刺身)
カタクチイワシ	橘湾いわし巾着網漁業	天洋丸船団 2014年3月10日取得	天洋丸船団 竹下敦子 090-5029-2126	カタクチイワシ
サケ、サクラマス、キングサーモン、ギンザケ、ベニザケ、カラフトマス、スルメイカほか	宗谷サケ定置漁業	北海道定置漁業協会宗谷支部 2014年8月12日取得	枝幸水産加工業協同組合 谷口和也 0163-62-1601	塩蔵、生鮮、加工 サケ、サクラマス、キングサーモン、ギンザケ、ベニザケ、カラフトマス、スルメイカ
ブリ、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、マサバ、ゴマサバ、ウマズラハギ、カワハギ、サワラほか	富山湾(氷見、七尾)寒鱈大敷網漁業	株式会社酒井水産および寒鱈大敷網有限会社 2014年11月23日取得	株式会社酒井水産 酒井光二社長 0767-59-1477	船上生ダ ブリ、アジ、ワカシ、ワラサ、サバなど

養殖エコラベル(AEL)認証実績(2015年1月)

養殖魚類	養殖方法	生産段階認証	照会先	主な製品
カンパチ	志布志湾 小割生養殖法	宮崎県丸栄水産かんぱち養殖 2014年6月30日取得	丸栄水産株式会社 大野隆由社長 0987-72-5698	カンパチ (フィレー、燻製)
ブリ	錦江湾 小割生養殖法	鹿児島県福山養殖ぶり養殖 2014年6月30日取得	福山養殖 小林松三郎社長 0995-55-2358	黒酢ブリ (フィレー)

(公社) 日本水産資源保護協会は以下の規格の認証 (認定) 機関として認められています。

生産情報公表JAS規格：「日本農林規格」(農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律に基づく規格)



食品の生産情報(誰が、どこで、どのように生産したか)を消費者に提供する仕組みとして、「生産情報公表JAS規格」を制定しています。JAS規格制度は、JAS規格を満たしていることを確認した製品にJASマークを付けることができる制度です。

国(農林水産大臣)が制定。

MELJapan：『マリン・エコラベル・ジャパン』(Marine Eco-Label Japan)



FAO(国際連合食糧農業機関：Food and Agriculture Organization of the United Nations)の持続可能な漁業の認証のガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。

*スキームオーナー「一般社団法人 大日本水産会」

*規格とその認証の仕組みを所有し、運営・維持する主体

AEL：『養殖エコラベル』(Aquaculture Eco-Label)



持続可能な養殖業の発展に資するため、FAOの養殖認証に関する技術的ガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。

スキームオーナー「一般社団法人 日本食育者協会」



● お知らせ ●

「(公社) 日本水産資源保護協会・受託検査について」

当協会では、以下の検査を受託しています。検査の申し込み・詳細は下記までお問い合わせ下さい。

●検査内容

- ・コイヘルペスウイルス(KHV) PCR検査
- ・コイ科魚類特定疾病検査(KHVおよびコイ春ウイルス血症(SVC))
- ・中国向け輸出錦鯉検査
- ・ヒラメのクドア・セブテンブクタータ検査
- ・カナダ向け輸出餌用マサバの目視検査
- ・ロシア向け輸出水産食品魚病検査(活魚介類検査)
- ・中国向け輸出活水産物検査(目視検査)

●検査方法

農林水産省「特定疾病等対策ガイドライン」、国際獣疫事務局(OIE)監修の疾病診断マニュアルなどに準拠した方法を用います。検査結果は日本語表記あるいは日英文併記の結果報告書を発行します。

●受託検査に関するお問い合わせ・資料請求

公益社団法人 日本水産資源保護協会 受託検査担当

TEL：03-6680-4277 FAX：03-6680-4128

E-mail：kensa-jfrca@mbs.sphere.ne.jp

ホームページ：http://www.fish-jfrca.jp/

国産水産物流通促進事業

『店頭学習会』を開催しました

* ~魚を食べて健康になろう~ *

当協会が代表機関をつとめる国産水産物流通促進センターでは、国産水産物の流通の目詰まりを解消すべく、様々な取り組みを行っています。その一環として、水産物小売店に指導員を派遣して、料理方法、漁業、養殖生産の実際、魚介類知識などの商品知識や鮮魚販売者としての留意事項などについて売場担当者向けにアドバイスを行う店頭学習会（販売力向上）を全国各地で開催しています。



奈良県、近鉄百貨店地下にある鮮魚店『魚組』で行われた店頭学習会。
同百貨店で行われていたイタリアフェアに合わせ、魚介類を使用したイタリアンメニューを紹介しました。



福岡県のバル（イタリア・スペイン料理を扱う軽飲食店）で開催された店頭学習会。
普段は肉料理が多いなか、指導員の指導を受け、魚介類を使用した特別メニューを考案しました。

全国の小学校にポスターを配布！



B1版 (728mm×1030mm) 「魚譜431選」 協力：日本水産株式会社



B2版 (515mm×728mm) 「びっくり!? 海の生き物クイズ」

国産水産物流通促進事業の一環として、全国学校給食会連合会をはじめ、都道府県学校給食会、教育委員会の皆様のご協力のもと、全国の小学校にポスターを配布しました。子どものうちから水産物に慣れ親しんで欲しい、体の構造や生態を知って興味を持って欲しい、そしてもっと食べて欲しい、そのきっかけになるポスターを目指し、作製しました。

平成 27 年 1 月 23 日発行

発行——公益社団法人 日本水産資源保護協会

●連絡先
〒104-0044
東京都中央区明石町1-1
東和明石ビル5F
TEL 03(6680)4277
FAX 03(6680)4128
【振替口座】00120-8-57297

企画・編集——公益社団法人 日本水産資源保護協会
制作——株式会社 生物研究社
印刷——株式会社 東京印刷

